

まちの話題

6月5日[Thu]

長年の功績を称える 春の叙勲・褒章を受章

国から贈られた勲章▶



▲瑞宝双光章を受章された野中さん

国家や公共に対し功績のあった人に贈られる令和7年春の叙勲・褒章で多久市から3人が受章されました。3人のうち「瑞宝双光章」を受章した野中修身さん（東多久町）は、佐賀県バレーボール協会理事長として長年にわたり県内のバレーボールの競技力向上や普及に携わり、選手育成などに尽力されてきました。

現在は同協会の副会長を務める野中さんは「私がいただいているのか、驚きの気持ち。周りで支えてくれた家族や協会関係者の方に感謝しています。子どもたちがもっとバレーボールに関心をもってもらえるよう声かけをするなど、バレーボール界に少しでもお役に立てれば」と受章への思いを話されました。

また、受章されたほか2人を紹介します。

■旭日双光章 飯守 康洋（西多久町）：地方自治功労

■藍綬褒章 寶藏寺 美喜子（南多久町）：更生保護功績

6月15日[Sun]

公立佐賀中央病院 ついに完成



▲テープカットを行い、新病院の完成を祝う関係者のみなさん

多久市と小城市をはじめとする広域医療を担う「公立佐賀中央病院」（東多久町）が完成し、関係者内覧会、一般内覧会が行われました。関係者内覧会には、山口祥義佐賀県知事や公立佐賀中央病院の佐藤清治院長、多久小域医療企業団の横尾俊彦多久市長、南里隆小城市長ら関係者150人が出席し、テープカットで完成を祝いました。

完成式で多久小域医療企業団企業長の横尾市長は「必要な医療アクセスを提供できるように、しっかりと基盤を確保したい」と挨拶しました。新病院は免震構造の地上4階建てで、新設される眼科を含め20の診療科を備え、一般病床95床、療養病床45床の計140床を有します。常勤医師19人を含む約230人体制で運営され、医師の集約によって救急医療の充実が期待されています。

また新型コロナウイルスなど感染症に対応した病床をはじめ、災害拠点病院としての機能強化も図られており、屋上にはドクターヘリが離着陸できるヘリポートが設置されています。災害時を含め、重症患者を佐賀市内の大型病院などへ搬送する際に活用されます。

新病院は7月2日(水)から救急外来、7月7日(月)から一般外来の受付を開始します。

